

平成24年度 学校(自己)評価書

東海大学付属翔洋高等学校

5～1は教員評価(5よい 4おおむねよい 3どちらともいえない 2やや不十分 1不十分)

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営	年間教育目標の実践と点検・現状における課題の解決・改善に努める	<ul style="list-style-type: none"> 専任教諭の比率が下がり、非常勤講師の割合が上がったことで、教育の質の低下が懸念されている。 教員間の意思疎通が不十分なことによる指導のばらつきがあった。 言われ続けて久しい「教職員の意識改革」がまだまだ必要である。 	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 日常の業務のIT化により仕事の迅速化を図る 実践指導の打合せを綿密に行い、極力指導のばらつきをなくす
学習指導	基礎学力の定着と授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学年が上がるにつれ学習意欲が低下している 教員は生徒の学力がついていないと感じているが、生徒は授業が楽しいと答えている。授業が知的活動になっていない 	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣化 教員は研究授業などで授業力を上げる
クラス指導	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席のないクラスづくり いじめのない、お互いが高めあえるクラスづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻や欠席の人数はクラスによりばらつきがある 遅刻者の大半が1・2分の遅刻である 欠席は特定な生徒によるものが多く、深刻化してきている いじめの報告もなく好ましい人間関係の中で生徒は楽しく生活している 	3.9	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の生活が楽しさを優先しており、ややけじめに欠ける面があるので、保護者、担任、教科担当の連携で指導を強化する
生活指導	社会ルールとマナー指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通学者のマナーについて改善の必要がある 生徒の悩みになかなか対応できていない 	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 躰を中心とした指導を強化する 挨拶、服装、頭髪、言葉使い、掃除、乗車マナーなどを徹底して指導する カウンセラーと協力しながら生徒の悩みに親身になって対応する
進路指導	目標設定と進路決定の早期化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒も保護者も進路決定の早期化に戸惑い、情報の提供が不十分であると感じている 	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 保護者から言われて対応するのではなく、生徒の将来やニーズに合った情報がいつでも提供できるようにする 学習と進路を繋げた指導を計画的に行い、最終的に満足のいく学校生活をさせる
特別活動	生徒会活動と部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の満足度は高いが、学校生活全般及び学習の満足度とは比例していない 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 勉強と部活動の両立、部活より勉強、と言いながらも学習への取り組みの低さは大きな課題である

研究・研修	公開授業の定期化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体としての公開授業は年間2回実施し、保護者約350名が参観した ・授業に対する評価は高かったが、生徒管理に対しては手厳しい意見がいくつかあった 	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度は各教科による研究授業も計画している
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に昨年より評価が下がっている ・学年が上がるにつれ評価が下がっているのは、学校の魅力が減っている可能性がある ・生徒、保護者、教員の回答のずれで、保護者が全体的に高く評価しているのは学校に対する期待値だろう ・教員の評価が低いのは自信のなさか謙遜か不明である ・生徒が卒業時に「よい学校だった」と思えるようにするための検討と努力が必要である 			